

# 最新事情

生徒一人一人の進路に合わせ、  
系列や科目を選択する

## 岐阜県立岐阜総合学園高等学校

(岐阜県岐阜市)

岐阜総合学園高校は平成9年に岐阜県初の総合高校としてスタート。以来15年になる。生徒がそれぞれの進路に合わせ科目選択ができるように、130科目余りの科目数が用意されている。授業の中では各種検定も導入されており、サービスマナー検定、ビジネス実務マナー検定もその一例である。観光ビジネス系列の試みをお話を伺った。

### 1年次の最大の課題は、 キャリア形成の土台づくり

日本のほぼ中央に位置する岐阜市は、人口約42万人。県立岐阜総合学園高校はその郊外にある。校舎の南側を流れる荒田川にはカルガモやマガモがゆったりと漂う。水辺から市中心部の方に目を転じると、金華山の頂に白く輝く山城が望める。岐阜市のシンボル、岐阜城である。同校は平成9年に岐阜西工業高校と岐阜第一女子高校を統合・再編し、岐阜県初の総合学科の高校として設立された。多様化する生徒のニーズに対応するため自然科学、メカトロニクス、環境テクノロジー、情報システム、生活福祉、スポーツ科学、国際文化、観光ビジネス、芸術文化の九つの系列がある。県内には現在、総合学科は8校あるが、中で最も多くの系列を備え、

拠点校としての役割も担っている。1学年は約280人。約8割が進学を希望している。

1年次は、2年次からの系列選択に向けて、生徒一人一人が自らと向き合い、自分自身の適性や興味関心を突き詰め、自分が進みたい進路を明確にしていく時期であり、キャリア形成の土台づくりの年次である。その中核を担うのが「産業社会と人間」(1年次通年)の授業である。生徒たちはそれぞれ自分なりの進路をイメージして入学してくるが、その多くは漠然としたものである。それを現実とすり合わせ、確かなものへと鍛え、系列選択へとつなげていかななくてはならない。そのためこの授業は、科目担当者よりもとより、クラス担任や系列担当者、保護者、卒業生、さらには学校を越えて、地域社会をも巻き込んだ授業展開となる。

10月中の3日間、授業の一環として生徒全員が参加し、インターシップが行われる。実習先については、自分の進路に関係する事業所、あるいは自分が働いてみたいという職場を生徒が探し出し、自分で受け入れを依頼するという方法を取っている。以下のような流れだ。

- ① 希望に合った実習先を探す
- ② 先方に主旨を伝え、訪問予約をする
- ③ 担当者に面会し、受け入れを依頼する

大学生が行う就職活動に近い内容である。これを社会経験の乏しい高校1年生が行うには、それなりの環境づくりが必要だ。インターシップの目的と意義について理解を求め、広く



後藤茂伸校長



観光ビジネス  
系列を担当する  
(右から)  
山下悦子先生、  
小森升裕先生

## 盛んな部活動 1年生の加入率は100%

協力を仰ぐことになる。まずは保護者対象のフォーラムを開催し、保護者に協力を要請。さらには生徒の実習希望先に対しても協力を仰ぐ。場合によっては卒業生にも力を借りるなど、生徒一人一人を支える態勢をつくっていく。周囲の支援態勢があつてこそ、生徒が安心して自立への歩みを進められるとの考えからだ。

同校では今、誰に対しても気軽にあいさつできるような校風づくりに取り組んでいる。生徒が進んで行くあいさつは、生徒の成長を見守ってくれる保護者や地域社会に対する感謝のメッセージとなるからだ。「生徒たちが自立を果た

していく過程では多くの大人たちの支えが必要です。どこでも誰に対して

も自分からあいさつできるような生徒であれば、周りの人たちも親身になってくれるでしょうし、より多くのアドバイスももらえることできるでしょう。それは将来どんな仕事に就いても言えることです。だから、今のうちにその習慣を身に付けさせたい」と後藤茂伸校長は力を込める。そのため自ら率先垂範し、毎朝校門に立ち、生徒一人一人にあいさつの言葉を掛けている。

もう一つ、同校が力を入れて取り組んできたのが、部活動の活性化だ。昨年度の全国高校総体では弓道部の女子団体が、国民体育大会では少年の部で男子ホッケー部が優勝旗を手にするなど、校長室にずらりと並ぶ優勝旗からも、その成果は十分に伝わってくる。また、和太鼓部、吟詠剣詩舞部といった高校には珍しいユニークなクラブもあり、それぞれに活発な活動を行っている。同校生徒の部活動加入率は1年次100%。その後、多少減るものの、3年次でも86・3%と高水準を維持している。

「本校が目指しているのは文武両道です。生徒たちはこの先さまざまな困難に遭遇し、それを乗り越えていかなければなりません。そこで支えとなるのが、忍耐力であり克己心です。こうした力は教室以上に、部活動を通して鍛えられます。ですから学校を挙げて、生徒たちに、頑張れ、やり抜け、とハッパを掛けています」。

こうした環境下、生徒たちは2年次から系列に分かれ、それぞれの進路に合わせた学びを選択していく。ここでは9系列の中から「観光ビ

ジネス」系列を取り上げてみたい。

生徒の特性について、系列主任の山下悦子先生と小森升裕先生はこもこもこう話す。「生徒たちは体力があつて、ともかく元気」「すごいですよ、本校の生徒は。朝6時には体育館にコートを張って、朝練を始めてますから。学習面でも課題を与えれば必ず返ってくるし、与えれば与えるだけ伸びていく手応えがあります」「力がありますし頑張りがきく」。担当科目の「総合実践」「ホテル講座」の授業の中に、それぞれビジネス実務マナー検定、サービス接遇検定を導入したのも、こうした生徒たちの力をより発揮させようとの狙いからだ。

「卒業後、すぐに就職する生徒にとっては、実際に役立つ知識が学べるし、また進学する生徒にしても、今から学んでおけばいずれ役立つことは確かです。特に「ホテル講座」は演習中心の授業ですから、サービス接遇検定で学ぶことはそのまま授業に生かれますし。検定にチャレンジすることで、資格を取れるのも大きな魅力です」と山下先生は話す。

ちなみに「ホテル講座」の授業では、6月に受講者全員がサービス接遇検定3級を受験し、昨年は全員そろって合格している。この中から4人が2級に挑戦し、3人が合格。山下先生としては、この試みをさらに推し進め、準1級受験につなげたいと考えている。「やればできる生徒たちですから、ぜひ面接試験を体験させたಿದೆですね」と生徒に向ける期待は大きい。



最新事情 23 ..... 岐阜県立岐阜総合学園高等学校

時間割を作るのは自分、人に頼れない分、自立心がついた

では、生徒たちは学校や授業に対し、どのように感じているのか。観光ビジネス系列の3年生4人に話を聞いた。入学の動機については「自分の進路に合わせた授業が選べるところがよかった」と全員が口をそろえる。「自分で系列を選び、科目を選んだんだから、勉強にも力が入った」との感想もほぼ全員共通だ。

「将来、金融機関で働きたいなと思い、この学校を選びました。仕事に関連した授業を選択できたのは、自分にはとてもよかったと思います。興味がある内容だから、面白いし、勉強が楽しかったです」。こう語る笹田真生さんは、ビジネス実務マナー、簿記、ワープロ、情報処理、電卓などの検定資格を多数取得。地元信用組合の内定を得ている。

岡本舞さんの場合はいろいろ迷いもあったという。「母が美容師だったので、何となく自分もそうなるのかなと感じていました。その一方で、ホテルで働くことにも憧れていました。この学校なら、サービス分野に関連したことが広く学べるし、その上で将来プランを決めようと思ったのです。結局は美容師になることに決めました。専門学校に進学し、その先3年くらい修行した後、家に戻り、母の美容院を継ぐつもりです。自分の進路について、とことん突き詰めて考えたおかげで迷いは消えました。頑張り

ます」とすがすがしい笑顔を向ける。和太鼓部のキャプテンとして、県大会で優勝を勝ち取った体験が大きな自信になっているようだ。

山川智衣さんもすっきり進路が決まったわけではない。「子どもが好きだし、保育士になるのかなと思いついて、生活福祉系列に進むつもりでした。ところが入学してから、進路についてさまざまなことを学び、自分自身についていろいろ考えていく中で、どうも違うみたいと気付いて。ホテルや結婚式場などで働きたいと思うようになりました。今の目標は、ブライダルプランナーになること。専門学校でさらに学びを深めたいと思います」。

就職希望の大石優里さんは「自分は将来、事務職に就きたいと思いついて、商業科目を中心に学ぶつもりでした。接客にも興味があったので、その両方が学べる観光ビジネス系列を選びました。この学校に進んでよかったと思うのは、自立心がついたこと。2年生になってからは一人一人時間割が違うので、友だちに頼るわけにい

きません。中学までは友だちにくっついて行動することが多かったのですが、初めは戸惑いました。でも、決まった友だちと固まらないから、かえってたくさんの人と友だちになれました。それは私だけではなく、みんなもそう言っています。4人の話を聞き終え退出するころには、すでに日も暮れかかり小雨も降り出していたが、野球部もバレー部も練習に余念がない。教室からは吹奏楽部の演奏も賑やかに伝わってくる。青春真ただ中の生徒たちだ。

「ホテル講座」の授業では、電話応対、フロント受付、レストランでの接客などの演習が実施される



(上段左から) 山川さん、岡本さん、(下段左から) 大石さん、笹田さん

